東京都産業労働局農林水産部森林課森づくり推進担当

WOOD LETTER

ψ Moku推し ψ

令和7年12月vol.58

奥多摩湖から小河内ダムを望む
多摩産材流通現場等見学会に

森林環境譲与税　ご担当者の皆様へ

平素より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

気が付けば今年もいよいよ師走を迎え、街には冬の訪れを感じる季節となりました。木々の葉も落ちてきて、朝晩の冷え込みが一段と厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。年末に向けて何かと慌ただしい時期ですが、体調を崩しやすい季節でもありますので、健康管理には十分ご留意ください。来年も引き続き、東京の森林資源の活用と持続的な森づくりに向けて、皆さまと共に歩んでまいりたいと思います。

ということで今年最後の“Wood Letter ψMoku推しψ”vol.58をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係する部署にも転送していただくなどご協力をお願い申し上げます。

：森づくり推進担当一同：

（1）令和７年度「自治体職員 多摩産材流通現場等見学会」

東京都は、区市町村の職員を対象に多摩産材の伐採現場や製材工場など、木材流通の現場を見学する「多摩産材流通現場等見学会」を毎年開催しています。この見学会は、東京の森林・林業について理解を深め、多摩地域の森林整備や多摩産材活用推進につなげることを目的としています。

今年度は、第１回を１０月１０日（金）、第２回を１１月１４日（金）に実施しました。

第１回では、伐採作業を行っている主伐現場から始まり、原木市場、製材工場、そして多摩産材を活用した施設と、木材の流通過程を一通り見学し学べるプログラムとしました。

第２回は、森林を実際に歩いて体験することを主な目的として、伐採現場や多摩産材を使用し整備した森林セラピーロードを歩き「トレイル」を体験しました。その後、伐採跡地に植える花粉の少ないスギやヒノキなどの苗を育てる採種園、多摩産材の情報発信・相談窓口である多摩産材情報センターを見学しました。

《第１回（１０月１０日）の様子》

青梅市の伐採現場では高性能林業機械ハーベスタとフォワーダによる作業を見学。ハーベスタはチェーンソーで切った木の枝を切り落としながら、一定の長さに切断していく。

都内唯一の原木市場。競りの様子を間近で見学し、原木市場の歴史をはじめとした概要や取扱量、丸太がどのように評価され価格が決まるのかなどの説明を受ける。

多摩産材をふんだんに活用した「フレア五日市」は、木の香りやぬくもりを感じられる施設。設計の段階では、独自の形状を実現するための工夫や苦労について説明していただいた。

製材工場では、原木市場で買われた丸太の皮むき、製材、乾燥、仕上げなどの一連の工程を見学。特に乾燥室では、室内で乾燥工程の詳しい説明を受け、木材の品質管理の重要性を学ぶ。

《第２回（１１月１４日）の様子》

伐採現場を見学後に、スギやヒノキの苗木を植えたエリアでの鹿による食害対策も見学。防護ネットや囲いの工夫、定期的な点検、補修の重要性について説明を受ける。

日本初の森林セラピー専用ロード「登計トレイル」では、色づく紅葉を眺めながら歩き、多摩産材を使用した「空を見るベンチ」に腰掛けて、森の香りや自然を豊かさ感じる。

花粉の少ないスギやヒノキの苗木を育成する採種園を見学。花粉発生源対策として少花粉品種の種子を増やす取組が進められている。カメムシによる被害への対策なども聞く。

多摩産材の流通促進や利用拡大を目的とした情報発信・相談窓口「多摩産材情報センター」を見学。ここでは多摩産材の特徴や活用事例等の説明を受ける。

どちらの回も参加者から好評をいただき、「有意義な見学会だった」との声が多く寄せられました。アンケートにご記入いただいたコメントの一部を以下にご紹介いたします。ご参考にしていただき、今回参加できなかった方も、次回以降ぜひご参加ください。

第１回参加者アンケートより抜粋

- 生産から活用まで一連で見られたのは非常に良かった。今後の職務に大いに役立ちそうだ。
- 伐採現場から木材として使用できるよう加工するまでの流れを一連で見学することが出来、理解を深めることが出来た。
- 高性能林業機械をあそこまで近くで見られることは大変貴重だと思った。フレア五日市では、設計者の木材使用の志が感じられた。
- 普段は見ることのできない伐採作業を直接見ることが出来、セリの現場も体験することが出来た。
- 専門家の方による生の話を聞くことが出来、今後の業務に活かすことができると思った。

第２回参加者アンケートより抜粋

- 伐採や森林セラピー(登計トレイル)の現場を実際に見たことで、森林整備の必要性や苦労、効果的な活用施策などが実感できた。
- 花粉事業の現場も見れて、リアルタイムの木の処理の仕方も伺えました。仕事に活用できそうです。紅葉もきれいで楽しめました。
- 日々机に向かって仕事をするだけでは、知ることのできないことを多く体感することができた。
- 今後も現場見学会などを区市町村担当者向けに実施してほしい。

（2）東京の木 多摩産材 利用拡大フェア2025

東京の木 多摩産材の魅力と活用事例を広く発信し、地域の木材産業の利用拡大を推進する展示商談会「東京の木 多摩産材利用拡大フェア 2025」が、11月20日(木)・21日(金)の2日間、新宿NSビル大展示ホールで開催されました。今年で11回目となる本フェアには、2日間合計で1,111名が来場し、盛況のうちに幕を閉じました。

会場には51の事業者・団体が出展。住宅や公共施設向けの建材、家具、インテリア製品、木工品、外構など、東京の木 多摩産材を活用した多様な製品が並びました。来場者は実際に製品に触れ、木の香りや温もりを感じながら、専門家から直接説明を受けることができる貴重な機会となりました。また、「東京の木 多摩産材」の認証制度や、実際の導入事例もパネル展示で紹介されました。
ステージイベントでは出展者による商品紹介、東京の木 多摩産材利用事例の紹介など、2日間合計で21のプレゼンが行われ、来場者は多様な活用方法や、最新の技術・デザイン動向を学ぶことが出来ました。さらに、木造建築や木質化に関する補助金、木材利用ポイント事業などの実務に役立つ情報も提供されました。

本フェアは、都市部での国産木材利用拡大のモデルケースとして、公共・民間双方の木材需要を喚起し、林業・木材産業の活性化に寄与しています。出展者・来場者の交流を通じて、新たなビジネスチャンスやネットワークが生まれ、今後の東京の木 多摩産材の更なる普及・活用が期待されます。
今回来場を逃した方はもちろん、来場されなかった方もぜひ次回の開催にご注目ください。

URL：東京の木 多摩産材利用拡大フェア

東京都農林水産振興財団

とうきょうの木 PRブース

PRステージイベントの様子

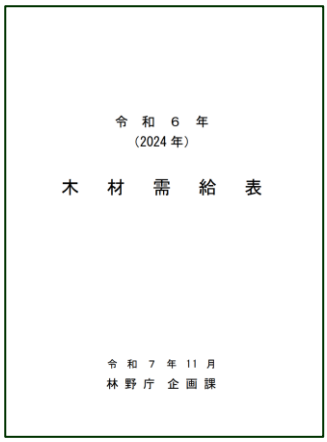
あきがわ木工連

地面から10cm浮いた木製砂場

東京都森林組合

（3）林野庁「令和6年度　木材需給表」を公表

林野庁が11月21日に発表した令和6年度木材需給表によると、国内の木材需要は前年より増加し、特にバイオマス発電などエネルギー用途での燃料用木材の需要が伸びました。
一方、木材自給率は42.5％と前年比で0.4ポイント低下し、国内生産量の増加を上回るペースで輸入量が増加しています。
今後は再生可能エネルギー政策やカーボンニュートラルの推進により、燃料用材の需要がさらに高まる見込みですが、国内林業の活性化と安定供給体制の強化が重要な課題です。
また、木材は木の良さを肌で感じることが出来る貴重な資源であり、今後もその魅力を活かした利用拡大が期待されます。


令和 6 年
(2024 年)
木 材 需 給 表
令和 7 年 11 月
林野庁 企画課

「令和6年度　木材需給表」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/attach/pdf/251121-1.pdf

（４）多摩産材利用促進プロジェクト　令和６年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業の令和６年度活用事例をご紹介します。東京の木 多摩産材と触れ合う場を創出し、更なる利用拡大を図るため区市町村によるモデル的な公共施設整備に対して支援するこの事業は、令和６年度は１６区市町村２３事業に対し活用されました。（令和７年度は１７区市町村２０事業の予定）今回、足立区立図書館の什器と江東区立公園のベンチを紹介します。

足立区事例

やよい図書館 什器の整備

書架

書架

江東区事例

公園木製ベンチの整備

塩浜一丁目公園

大島三丁目児童遊園

古石場川親水公園

多摩産材PRプレート

（5） MOCTION　企画展示

木材の大消費地である東京でのさらなる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」では全国各地の木材製品の展示が行われています。

８月２８日～９月９日　高知県

障害者授産施設「木作り工房こだかさ」が作製したヒノキのスツール、木工キット等が並ぶ。また、「土佐草木花」のヒノキや桜材を使った飾り花が目を引く。

９月１１日～９月２３日　愛知県

「カリモク家具」はヒノキや広葉樹を使った家具と未利用材やナラ枯れ材を活用した家具を展示。「木軸ペン工房KIKI」の木製ペンなどの木製文房具が木の温もりを感じさせる。

９月２５日～１０月７日　福島県

パルプや燃料用チップとして使われてきた広葉樹が、アイデアと職人技により家具や遊具に生まれ変わる。また、様々な樹種を使ったフローリング材も展示。

１０月９日～１０月２１日 茨城県

木の温もりが感じられる「八溝材」と「大子漆」の透明感が絶妙にコラボしたテーブル、箪笥、食器などの木製品が並ぶ。様々な色のランプが美しい。

12/4～1/6は隈研吾館長の企画展示を開催中です。ご来場をお待ちしています！

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと）

〝日本の人工林でのスギとヒノキの割合はどのくらいか？〟

現在、日本の森林面積は国土の面積(約3,800万ha)の3分の2にあたる約2,500万haを占めており、そのうち人工林の面積は約1,000万haです。人工林の主要樹種の面積構成比はスギが44%、ヒノキが25%、カラマツが10%、その他は21%となっています。スギとヒノキは日本を代表する建築材であり、スギは湿潤な土壌を好み、ヒノキはやや乾燥した土地を好みます。また、ヒノキは積雪による被害を受けやすいため、雪の多い日本海側や東北にはほとんど見られません。一方、スギは雪に強く、青森県から鹿児島県まで広く分布しています(北海道のスギの人工林は南端部の一部のみ)。なお、カラマツは耐寒性があり、主に寒冷地に植栽されています。

「WOOD LETTER　Moku推し （ウッドレター　モクオシ）令和７年１２月vol.５８ 」

〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目8番1号　東京都庁第一庁舎21階中央
東京都産業労働局農林水産部森林課　森づくり推進担当
TEL03(5000)7198(直通)　担当: 秋葉、伊藤、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問合せください。

Tokyo Tokyo Old meets New　みどりと生きるまちづくり TOKYO GREEN BIZ

Y-000815